

# 「いつの間にか」

清水地区 鈴木 深雪

「おとうさんののはなのあなは、うずら豆が入るほど大きい。わたしはそんなおとうさんが大すぎだ。」

私が小学校二年生の時に書いた作文の中の一文です。

父が亡くなって、いつの間にか今年で七回忌を迎える事になりました。平成十七年という年は、一月に西子雅

夫先生、五月に私の父、十月に中村明先生と、三人の先生が相次いで病気で亡くなりとても寂しい清水地区となりました。天国で三人揃ってそろばんをはじいているのかな？とよく考えたものです。その後牧野先生のご子息である良彦先生が入会されました。夏休みに開催された清水地区珠算大会では、成績処理の時間が良彦先生の得意なパソコン作業により大幅に短縮されました。この清水地区珠算競技大会は、最初清水市・庵原郡小中学生珠算競技大会という名称でした。いつの間にか今年四十四回目を迎えました。一人二種目参加という形なので参



加しやすく当塾の生徒も毎年参加しています。

この原稿を書くにあたり、父が保管していた昔のアルバムを紐解いたので、その中に昭和四十六年の静岡県珠算会館落成記念の写真がありました。皆さん本当にお若いですね。失礼致しました。いつの間にか月日が経ってしまいました。また以前行われていた「健康増進ハイキング」の写真も見つかりました。三度笠をかぶった父の姿を思い出しました。楽しかったですね。

私の場合塾を正式に継いだという記憶が全くありません。高校生の頃から忙しい父と母を手伝っているうちにい

つの間にか今日に至った感じがします。小学生の頃はまだコンピューターが普及していなかったので、放課後テストの集計の手伝いをしたり、朝の会の前に読上算を読んだりしました。小学校の先生も寛容だったのでしょうか？今では考えられません。学校から家に帰ると自転車がいっぱいあふれて、教室だけでは足りず、台所、玄関、ピアノの上でもそろばんをはじいている子供達がいきました。その当時、学年八クラスから十クラスありましたが、今は学年一、二クラスです。いつの間にか子供達が減少していきました。少子化を肌で感じる今日この頃です。

その為か生徒一人一人にかかわる時間が増え、今の子供達が置かれている色々な現状が目につくようになりました。まず、何といっても離婚している家庭が増えたという事です。母親とその祖父母が一人の子供を支えているケースが多いようです。お迎えに来たお母さんがいらいらしているのを見かけたります。みんな忙しくて余裕がなくなってきたのでしょうか。

次に夜ふかしをして寝不足の子供達が増えているように感じます。あくびをしている子供に何時に寝たか聞いてみると「十二時過ぎまでゲームをしてた。」という返事が返ってきました。その結果、食欲がなくなりいららして落ち着きのない子供になってしまいうです。「めんどうくさい。」が口癖になっている子供が増えたように感じるのは私だけでしょうか。



竜巻、ゲリラ豪雨、猛暑とこの頃異常気象も続いています。

いつの間にか世の中変わってしまったと思う中でも、室町時代から庶民に親しまれ引き継がれているそろばんを大事にしなければと思いました。またそろばんを通してかわる子供達の心の声も聞いていきたいと思ひます。

久々に夏休みの読書感想文を書いている子供の気持ちになりました。父が生前私に言った言葉を思い出しました。「役がきたら気持ちよく引き受ける事」今回、いつの間にか自然とそろばんにかかわってきた自分を振り返る良い機会になったと思ひます。

この夏列島を沸かせたロンドン五輪も十七日間の幕を閉じました。いよいよ夏休みも終わり、九月から新学期、気持ちを引き締めていきたいと思ひます。